

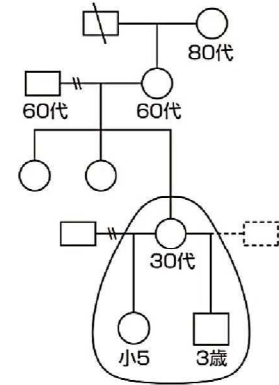
# 精神疾患の母親が治療を中断することで 子どもの不登校・不登園が発生

生活保護のケースワーカーから第1子の不登校のことで相談があった。

母親の意向で転居したことに納得がいかない第1子が新しい学校に登校しなくなった。生活保護ワーカー、小学校、保健師で話し合い、小学校の先生が迎えに行くなど細かく対応してくれたことで登校できるようになった。

第2子は保育園に行っていたが通園が滞りがちだった。保育園でも心配していたが、自宅で食事はしているようなので様子を見ていた。

その後、母親が第3子を妊娠していることを生活保護のケースワーカーから聞き、子どもの生活環境改善のためのチャンスだと考え積極的にかかわることになった。



まあなんか、一種、チャンス。ちょっと気になる家庭だったから、チャンスなのかなというところで、その時も家庭児童相談員と一緒に動いてたので、家庭児童相談員と話をして。なかなか受け入れをしてくれるお母さんじゃなかったんです。外部からのあれはですね。

でも、面接に行って、出産の後、この子が家にいると、お母さんも、生まれた赤ちゃんを育児するのにきついんじゃないとみたいな話をして、母子の日常生活支援事業っていうのがあるんですけど、要するにヘルパー派遣ですね。それを出産の後に使って、この子を保育園に、産後ですね、送ってもらうのに使ったらどうかねっていうことで。ヘルパーさんのほうにも、お母さんの性格とかをいろいろ話をして。で、結構入れたんですね。意外とそれで登園できるようになって、保育園はですね。本人は明るくて、ヘルパーさんと仲良くなって、結構ある程度、保育園は登園できるようになったんですね。

その頃から、ある程度そんなことを通して、お母さんとは顔見知りになれて、一応もう、登園支援は、ある程度の時期で終わったんですね。

母親の面倒を見てくれていた母親の祖母が亡くなり、母親は何も恩返しができなかったからヘルパーの資格を取って祖母にできなかったことを他の人にしたいと頑張っていた。母親の知的レベルは療育手帳の交付が受けられるレベルである。その頃、第1子が夜間徘徊をするようになり母親は心配をしていた。中学3年の第1子が妊娠していることがわかったが、本人が中絶を希望し医療機関で手術をした。母親は第1子のために費用の借入れ手続きをするなど頑張っていた。

第1子のことが一段落したら、母親の状態が悪化した。

くたびれて。それでもう。このお母さんも、病院に行ったり行かなかったりだったもんで、ガタッと調子悪くなったんで「お母さん、よう頑張ったけんね、くたびれたんよ」みたいな話をして「あんまりもう、きつかったら、この子たち2人はね、いつでも預かれるけん、言って」みた

いな話をして「うん、わかった」って。「病院に行ったほうがいいよ」って「病院に行こうね」っていうんで、精神科に、その頃から通い始めたんですよ、再度。で、その時についたのが統合失調症やったんですよ。

精神科の先生は、統合失調症かねって、この時にかかった病院の先生は言ってたんですよ。薬をやっぱり飲んだほうがいいねってということ。そして、預かるとかいう話で、一回この下の2人は児童相談所に預かってもらったんですよ。そしたら、1回目の時だったかな。どっちがどっちか忘れたけど、預かったかと思ったら、やっぱりもう、その日の夜とかに連れ戻しにきたんですよ。離れると淋しいみたいな感じで。よくあるパターンですけどね。

その後、母親の状態が悪くなり、本人もきつい、夜眠れないと言うことで3ヶ月間入院することになった。その間、第2子と第3子は児童相談所が施設での一時保護を行った。第1子は施設入所はイヤだと主張し、夏休みが重なったこともあり親戚の人が見てくれることで自宅に残った。その間、生活保護のケースワーカー、家庭児童相談員、保育園の保育士、保健師などが仕事の枠を超えて安全確認や食事の支援をした。

母親が入院した病院での診断名は人格障害であった。退院時に主治医は定期的な通院、訪問看護、デイケア通所を勧めたが母親はいずれも拒否した。医療機関での通院の継続が必要と考え、生活保護のケースワーカーと相談し母親が望む医療機関に転院し通院することになった。

母親は入院時に知り合った男性と親密になり、母親の退院後男性が同居するようになった。そのうち、男性が母親の飲酒をたしなめるようになり、母親は男性を疎ましく感じるようになった。母親が男性に別れ話を持ちかけたが、男性が同意しなくゴタゴタした。警察や母親の実父の説得で男性がやっと出て行った。その一件が落ち着いた後に、第2子が小学生を不登校になった。

「一日学校に来なくてもいいから、お昼に出てきて、ある程度おって帰るでもいいけん、おいで」とか言ったり、お母さん調子が悪くて、ご飯の用意ができてないんかもわからんねとかいうのもあって「お昼ご飯を食べにおいで」とかいう話をしてたんですよ。ある程度来れてたけど、今年の、いつぐらいからかな。春までは何とか持ってたんですけどね、ここ2、3カ月、もうまったく、この子も学校に行かない、この子も保育園に行かない状況が2カ月、3カ月ぐらい続いて、私たちも訪問に、みんなて協議して。

まず初めは、学校の先生が結構関係は良かったんで、行ってたんですよ。会えてただけど、なかなか登校までには至らなかったんですよ。そのうちに、もうお母さんがウザくなって。お母さんが、他人が来ることが面倒くさくなってきて、受けつけなくなってきたんですよ。一番関係が良かったのは保育園の先生だったんですよ。だから、保育園の先生が、じゃあ自分が……。普通、保育園は迎えにはいかないじゃないですか。今お母さんの調子が悪いけ、あんまりしつこくすると、お母さんは拒否をし始めると。だから、そっと見に行く感じで、調子が良さそうな時に、こどもを連れてこようとかいって、週に2、3回行ってってくれてたんですよ。

お母さんのタイミングと先生が合った時は、お母さんも話をしたりして、「こどもも自分が調子良くなったらやるき」とか言いよったんですよ。でも、だんだん、その先生のことでも面倒くさくなってきて、もうなんか、来ても会わなかったりとか、しだしたんです。

このまま……。これはやっぱりもう、ネグレクトに等しい状態よねって。やっぱり、安全確認

をきっちり取っていくことが大事だからっていうふうに、もう、1、2カ月経った後に、やっぱり、そこはきっちりしとかなないとねっていうことで、私と家庭児童相談員とかが1週間に……、2週間に1回か。で、学校は、ほぼ毎日夕方、行ってたんですよ。

お母さんはイライラ状態が激しく、医療機関への受診も中断していた。関係者で協議し、生活保護のケースワーカーから受診を促してもらうことになった。児童相談所は母親が積極的に虐待しているわけではないから強制的な保護はできないということだった。

ケースワーカーが月1回行った時は会えたとしても、その間の様子が見れないけ、あんまりずっと引っ張り過ぎても……。こどもの表情的にはですね、ずっと家の中におるから、まあ、お母さんと一緒に友達のとこに出るとかはあるみたいだけど、学校とか行かないから、あんまりいい表情じゃなくなってきてたんですよ。小3の子（第2子）のほうがですね。何とか間口を見つけて、少しずつでも、やっぱり改善していかないといけないよって話になっていて。

でも、私たちも、訪問に行っても、まあ、こどもに面接するのを拒否されるみたいなイメージも、無理やり拒否をするってわけじゃないんだけど、そんなに積極的に会わせてくれるってわけじゃないし、機嫌が悪い時とかは「義務教育とかいっても、私、全然行かんでも、ちゃんと生活できようになる」とか言うような感じのこともあったりして、こっちも、つい感情的になりますよね。

先週っていうか、協議（要保護児童対策協議会）の場面で、やっぱりどうかなって。児童相談所のほうでも、このことが虐待に当たるのかどうかということだとか、一時保護をどの時点でできるかっていうのを、検討してほしいって話にはしたんですよ。このままずっと、ほんとに安全確認とか見守りのままで、いいのかっていうかですね。

関係者が子どもの生活について心配してる中、母親が子ども手当支給の手続きをしに来た。その時に「みんな肌がガサガサになってね、なんか調子悪いんよね」と保健師や家庭児童相談員に相談したため、生活保護の医療券で受診するように勧めた。

感想：精神疾患を持った母親が治療中断をすることで、子どもたちの食事、学校への登校に支障が出てきている。援助してくれる親族を持たないケースの場合、公的な機関がいつまでどう見守ればよいか大きな課題である。この事例の第1子は高校生になったが、生活弱者世帯の子どもたちが高校を卒業することができる安定した生活環境を提供する支援システムが求められる。

（小笹）